

## 小学校教員養成課程学生対象の 造形感覚トレーニング

青柳三郎\*

美術教師は自らの美術理論を授業で実践する楽しみがある。本文の内容は、小学校教員養成課程の学生を対象に造形的感覚トレーニングを行った一例である。教師が技術面で修得しなければならない基本的事項の内、線描表現、立体表現、写実的表現、創造的表現等についての課題例を記述した。教師が表現力をつけることは、子どもたち一人ひとりの物の感じ方、考え方、表し方の把握ができ、悩みやつまずきを見取って指導の手掛かりとすることにつながるのである。下欄に、本文の課題を制作するときの留意点について記述する。

- ◇画面の大きさは、特別に指定するもの以外は、名刺判程度の小さなものとする。
- ◇描材、用具も、特別に指定するもの以外は、黒色各種鉛筆とする。
- ◇一作にかかる制作時間もなるべく短くし、短時間で言うトレーニングの主旨を生かすとよい。
- ◇課題の主眼は、課題番号に続けて付記した。
- ◇課題文の内容と主眼の要点のみを記し、指導の具体については紙面の関係で省略した。

### I 同一テーマの各種表現

#### 〔課題1〕 考察力

葉の無い樹木を1本探す。根元の状態から幹、枝(大、中、小の枝)にいたるまで良く観察して、樹木の形を線描する。消しゴムは使わず樹木一本を画面一杯に表現する。

#### 〔課題2〕 造形的要素の抽出

課題1の樹木の線描図を基に次の表現をする。根や幹、枝の中央を通る線を探して、中心線だけで表現する。根や幹、枝の太さに比例するように中心線の太さを加減する。

#### 〔課題3〕 省略の技法

課題1の線描図は細かい部分までかいてあるが、ここでは、その線描図を基にして細かい部分の線を省略し、大まかにとらえ直して線描する。

#### 〔課題4〕 認識力、写実力 (参考例1)

同じ木の幹の一部分の表皮を視覚や触覚を通して、その形態の変化や明度差、濃淡の違いなどを

---

\* 新潟大学教育学部

調べ、新しく認知したことを写實的に表現する。

〔課題5〕 立体的表現

課題3の線描図では、枝の配置が平面的になっていると思われる。ここでは、枝ぶりが立体的になるよう、即ち幹より前面に位置する枝と後方にある枝ぶりを想定し、重なり具合を熟考して創作する。

〔課題6〕 立体的表現

課題3の線描図を基に、画面左斜め上後方から光がさしていると想定し、樹木に光が強く当たる部分の枝と、陰の濃い枝の明度差に留意し、立体的に表現する。

〔課題7〕 同一テーマの主題による変化（参考例2）

課題1の樹木の線描図を基に、次のねらいを達成する。

①各種の曲線を抽出し、線の太さの違いや勢いに着目し、デザイン化（抽象化）する。②樹木の輪郭線の意味する内容によって、線の長さ、太さ、濃さが明示されるように線の形成化を行う。③葉が茂ったと想像して具象的に表現する。葉に隠れる枝に着目する。④枯れ木に花が咲き揃ったとして具象的に表現し直す。⑤地を暗くし、形を明るくする。⑥形を暗くし、地を明るくする。⑦課題7の①と同じ絵柄を別紙にかきうつす。それを元の画面の形に戻るよう4片に切断し、4片の組み合わせを変えながら、構成美が生じるように貼り直す。⑧課題1でかいた樹木を基とし、次に挙げる内容の樹木の内一つを選んで主観的に表現する。・若木・老木・擬人化した木・燃え上がる勢いのある木。

〔課題8〕 超現実的表現

樹木を主題として線描するが、その木と異質なものを組み合わせ、超現実的な空想画を制作する。

〔課題9〕 具象物の模様化

1本の樹木を1単位とし、カーテンレースの模様を表現する。1単位を配列するときは、ある程度、造形文法を考慮して制作する。どのように造形的秩序性を考えて表現したかを下欄に表記する。

〔課題10〕 技法や感情移入による違い

枯れ木を何枚かスケッチし、そのうち、良い構図の図柄を1つ選ぶ。それを原形とし、下記の内容により表現する。

①割り箸ペンと墨汁を用いて線描し、水彩絵の具で線が消えないように淡彩描法による彩色する。②チューブから出したままの水彩絵の具を割り箸ペンだけで、しかも、枯れ木だけに彩色する自由な色を使い画面の中で混色をする。③枯れ木の背景を空気遠近法により彩色する。無地状態の背景を色によって遠近感を出すために、画面下は遠方を意味し、画面の上は頭の上に近い空を意味し、

画面の上は頭の上に近い空を意味していることを認識して彩色する。したがって、下は薄く淡く上は少し濃くなると思われる。外景の実際をよく観察して確かめるとよい。いずれにせよ、微妙だから感じが出るまで練習をしてから取り掛かる。④次の感情色の1つを用いて彩色する。活気・静寂・明るい・暑い・寒い。

## II 群像表現

〔課題11〕 群像表現（参考例3）

海水着を着た女性5人の構成図を次の内容で表現する。画面は横長とする。全ての内容に、「何をしている」ためにそのような内容や構成図になっているかを、明確に線描する。

①一人ひとりのポーズは異なるが、横一列に位置している内容を構成する。②5人のうち1人を主演にし、残りの4人に何らかの意味を持たせた内容を線描する。③5人の全てが、身体の一部に接触し、且つ重なりのある構成図を想定して線描する。④母親が、4人の子供（年齢差、男女別も付けて）と意味のあるかかわりをしている内容を想定して線描する。

〔課題12〕 配色の違いと感じ

課題11の図柄で一番よい内容を1つ選び、それと同じ構成図を下記の4枚に写し、次の内容により、水彩絵の具で彩色し、絵の感じを比較する。

①暖色で同類色。②寒色で同類色。③グレッッシュ、トーンで。④自由な配色で。⑤地を暗く、形を明るく表現する。⑥形を暗く、地を明るく表現する。

〔課題13〕 間接経験による想像的表現

次の内容を線描する。

①チョモランマ登頂成功直後の人達の様子を主題にして。②韓国オリンピック開会式場にパラシュートで降りる人を主題にして。③地震の被害地で救済する人達を主題にして。④自分が犯人に遭遇したとして、犯人の顔をモニタージュする。⑤天国にいる人達の様子。

## III 線描のトレーニング

〔課題14〕 線描のトレーニング

次の各種内容を意図して線描する。

①上から下に向けて、一本ずつ離し、力を入れながらかく。線と線の感覚を2～3mmぐらい（以下同じ間隔）開ける。②下から上に向けて一本ずつ離し、弱い力でかく。③左横から右横に向けて一本ずつ離し、定規を使って強く、次は薄く交互に線描する。④右斜め上から左斜め下に続き線でゆっくりかく。⑤左斜め上から右斜め下に続き線で勢いよく速くかく。⑥左横から右横方向に続き線でゆっくりかく。⑦右横から左横方向に続き線で勢いよく速くかく。⑧右横から左横方向に続き

線でかくが、右から左へは強く、左から右へは弱くかく。⑨上から下に向けて普通にかく速さでかく。⑩左斜め上から右斜め下に一本ずつゆっくりとかく。⑪左斜め上から右斜め下に一本ずつ速くかく。⑫右斜め上から左斜め下に一本ずつゆっくりかく。⑬右斜め上から左斜め下に一本ずつ速く線描する。⑭右から左へ横に1本ずつ線描するが、スタートするときは強く、終わりに従ってかすれるようにかく。⑮左横から右横方向に一本ずつ線描するが、スタートするときは強く終わりに従ってかすれるようにかく。⑯×印の字形を大小、太さや濃さ等に変化を付けて沢山線描する。⑰心電図、地震計等のグラフに記録される線を想定して線描する。⑱枯れた木の幹や枝を線描する。⑲水面に出来る波紋を想定して線描する。⑳稲妻を想定し、ジグザグ状態の線を上から下に向けて一本ずつかく。㉑雨が降る状態を想定してかく。㉒噴水が立ち上る状態を想定してかく。㉓波うつ髪の毛を想定してかく

#### 〔課題15〕 続き線でかく技法

友達と交互にモデルになり、下の要領で顔を線描する。

①かく前に友達の顔や頭を画面一杯にかくことを想定して指がきをする。②次に、友達の顔を見て、形の大まかな輪郭を目でなぞる気持ちで線描する。線描の仕方は、線を細切れにしたりかき直したりせず、出来るだけ続けてかく。今回は、消しゴムを使わない。③同じ方法で、顔の細部を線描する。④目や口の一つ一つを良く観察すると、上下左右は対称でない。⑤髪の毛や、瞳の黒い部分は線を重ねてよい。

## IV クロッキー

#### 〔課題16〕 速写法

人の動きの中で一瞬静止した時の美しいポーズを、次の要領でクロッキー（速写）する。

①次に上げるポーズを下の画面にかく・1ポーズ目は、椅子に腰掛け膝の上にもう片方の足を上げて休んでいる・2ポーズ目は、腰を下ろして、靴紐を結んでいる。ポーズをかきたくなる位置からとらえ、イメージを確立してから一気に線描することが大切である。表情や服の模様などは省略し、造形の要素だけを線描するとよい。②消しゴムは使わない。③1ポーズにつき5分間で速写する。④友達同士が交互に、モデルになる。各ポーズとも全身像とする。

#### 〔課題17〕 速写法

動いている人のポーズの美しさを、記憶して次の要領で速写する。

①動いている人のポーズは、<sub>1</sub>工事をしている人 <sub>2</sub>歩いている人 <sub>3</sub>スポーツをしている人 <sub>4</sub>その他、各種の職場で動いて働いている人のポーズ。②珍しい動きである、変わっている、ユニークである、ムードがある等のようにかきたくなるポーズを見たら、記憶が新たなうちに速写する。③ポーズは、全身像とする。顔や模様などの細かいところは省略する。④黒インキのボールペンか万年筆を使用。消しゴムは使わない。⑤同一人物の場合でも違う人物でも、異なったポーズで6態速

写する。

〔課題18〕 技法（筆順）の概念ください

友達をモデルにして、①先ず頭からかき始め、次に足元からかき進め、最後に胴の部分で線を連結する要領で線描する。（この技法は、何時もかいてある筆順を変え、新鮮な態度で集中的に表現させるための手法の一例である） ②黒色各種鉛筆で続けてかく。

V 技法、感覚トレーニング

〔課題19〕 着想の変化

この課題は、かき順を逆にして、かく対象を集中的に見てかく事をねらっている。課題1の作品を上下反対にし、反対にしたままの図を別の画面に原画と同じくなるようにかく。

〔画面20〕 構成感覚

先ず、下の画面左上から直線をスタートさせる。直線は水平と垂直の方向だけに伸びていく。直線を交差させてもよいが、切り離すこと無く続けて画面右下のゴール点迄引き、直線が交差するデザインをつくる。

〔画面21〕 ペインテング

細長の画面を縦に5分割し、それぞれの面を明度差を変えてペインテイングする。面は、筆跡が残らないように、平らにかく。

〔課題22〕 立体的、写実的表現

①先ず、半紙から一辺5cmの立方体を製作する。定規を使用してのりしろも付けた設計図をかき、鋏と糊を使用して立法体を完成する。②製作した正立方体が一番立体的に見えるように、光の当たり方を確かめ各面の明度差が著しく感じられる配置を選択する。③正立方体の明度差に着目して、面に筆跡が残らないように平らにペインテイングする。明度差をきめ細かく観察し写実的立体的に表現する。

〔画面23〕 立体的表現

自作の立方体を水平に置いたと想定し ①やや上から見た図 ②斜めから ③斜めやや上から ④斜めやや下から見た図の稜線だけを線描する。面に隠れて見えない稜線は、予想して点線でかく。

〔画面24〕 立体的表現

一辺5cmの正三角錐を半紙から製作する。水平に置いたと想定し、陰になるところは斜線で大まかにとらえ、形に隠れて見えない稜線は点線でかく。

- ①真正面から見た図 ②やや下から ③やや上から ④水平にして斜めから ⑤斜めやや上から  
⑥斜めやや下から

〔画面25〕 描写視点を変える

鶏卵が、細長く立ててであると仮定する。殻の表面には、真上と真下の方向に、5つの面で等分割されており、分割する6本の直線がある。その分割線を次の角度から見ていると想定して、卵の輪郭と分割線を線描する。鶏卵の輪郭と、殻の表面に見える分割線はそのままかき、殻の陰になって見えないはずの分割線は薄く点線でかく。

- ①真正面から見た図 ②やや下から ③やや上から ④斜めから ⑤斜めやや上から ⑥斜めやや下から

〔課題26〕 認識力

鏡に写る自分の顔の各部分の形をよく観察し、次の方向から見て線描する。

1. 「目」(片方の目)(瞳、まつ毛、瞼) ①正面 正面下向き ③正面上向き ④横 ⑤横下向き  
⑥横上向き  
2. 「唇」 ①正面 ②正面下向き ③正面上向き ④真横向き ⑤横下向き ⑥横上向き ⑦斜め横向き ⑧斜め下向き ⑨斜め上向き

〔課題27〕 触覚による造形化

課題1 自分の顔を手の指や掌の平で触った感触だけを頼りに、顔全体や部分、髪の毛や眉等の諸変化を感知して下図に鉛筆で表現する。例えば、形の大小、形の違い、厚さ、硬さ、滑らかさ等の視点から感触を通して造形要素を認識し、それを点と線と面で表現する。自分が感受したイメージを忠実にしかも誠実に表現することが大切。

〔課題28〕 ラフスケッチの技法

立体感を出すことを目標にし、自分の掌をモデルとして表現する。

①立体感が生じるように光の当て具合を工夫して、ポーズを選択する ②掌にある面の種類を、明るい面、暗い面、中ぐらいの3種類の面に分けて観察し、面に明暗の差があることを確かめ、頭の中に記憶する。③掌の面の明暗差を明るい、暗い、最も暗いと大まかに3つぐらいに整理し、ラフスケッチする。

〔課題29〕 写実的表現

自分がかきたい掌のポーズを選択し、写実的に且つ立体的に表現する。前題では立体感を出すための練習として明暗差のある面を大まかに表現したが、ここでは掌の形や明暗差に変化あることをモデルからよく観とって、きめ細かく最後まで丁寧にかく。

## VI 色紙による表現

### 〔課題30〕 感情色を用いた心象表現

色彩の性質の1つに、感情色がある。自然現象に見られる天然の色から受ける、人間の感じ方は共通していることが多い。晴れて澄み切った青い空は、明るい気分、曇った灰色の空は陰気で湿った気分、炎は暑さや恐怖感を抱かせる。その他、白は潔白感、緑は平和等色々な感情を与える。

①過去、現在、未来を問わず、あなた自身が体験したこと（体験していること、体験するだろうこと）の中から一つを表現主題に定める。②配色は主題に添った自分自身の感情色を拠り所とする。③抽象的デザインを作成する。具象的でない方がよい。④主題が良く表すように次の内容をふまえる。・形や色を統一して、大小の変化を付ける。・形を主役を大きくし脇役を小さくする。・形や色を同じぐらいにし、繰り返す。・構成の仕方に造形的文法（バランス、リズム、ハーモニー、コントラスト、強調、アンバランス、統一と変化等）の内どれか一つを利用する。⑤色紙と鋏、カッター、糊等を用いる。⑥画用紙の大きさはわら半紙四分の一とする。⑦表現時間は90分とする。

### 〔課題31〕 モザイク表現（参考例4）

色紙を素材にモザイク画を制作する。同一テーマを、一枚は水彩絵の具を使って普通の描法で、もう一枚は色紙でモザイク風に表現し、両者の感じを比較する。

### 〔課題32〕 リズム表現（参考例5-①～④）

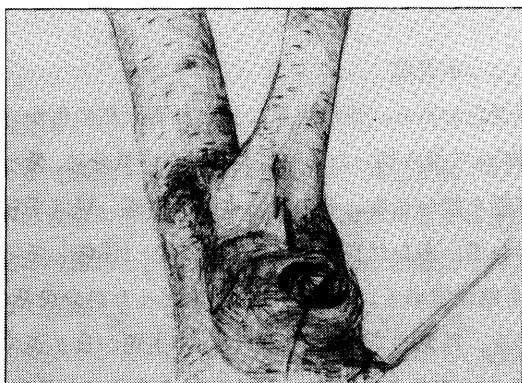
自然のリズミカルな形態に着目して、リズム感のあるデザインを色紙で制作する。

## VII 空想的表現

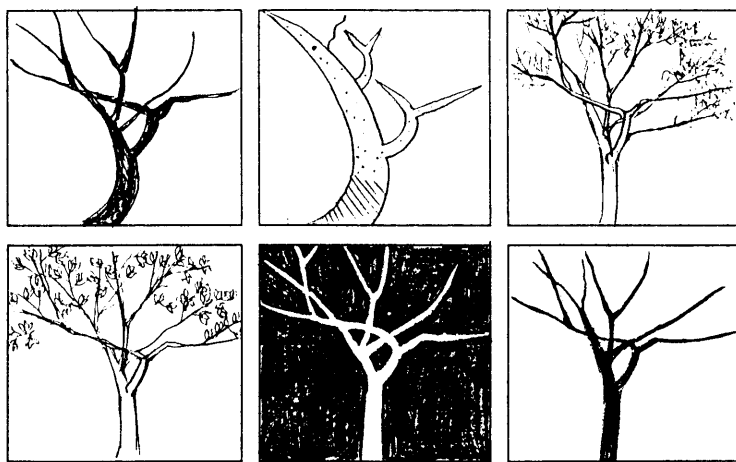
### 〔課題33〕 動勢表現（参考例6）

パンツ一つになった男の曲芸師10人が、お互いの体のどこかに接触している様子を空想し、黒色ボールペンで超現実的に表現する。人物が交差したり、一人ひとりや全体に動きが感じられるように構成する。

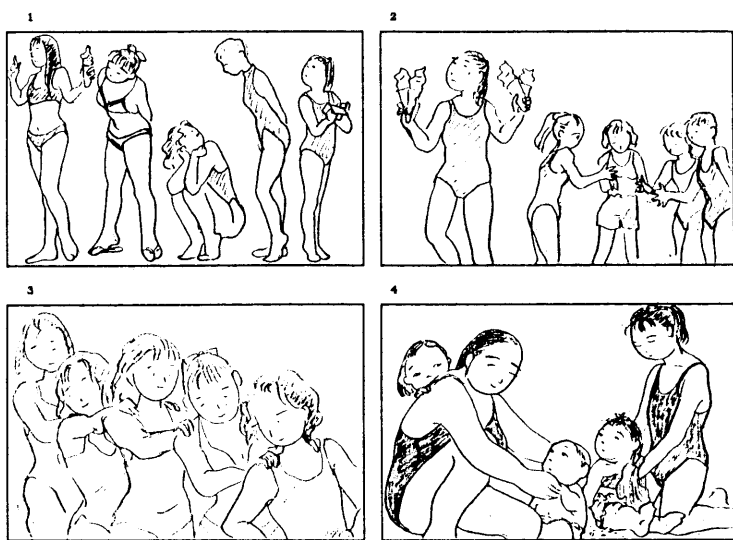
VIII 参考作品



参考例 1



参考例 2

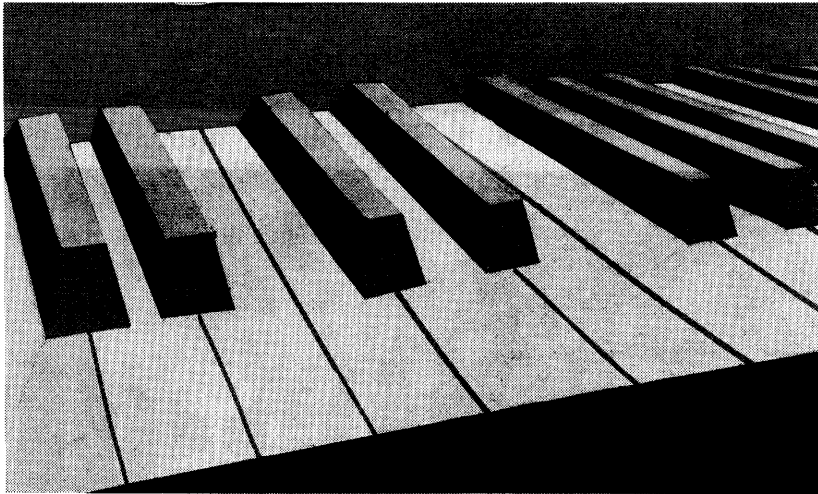


参考例 3

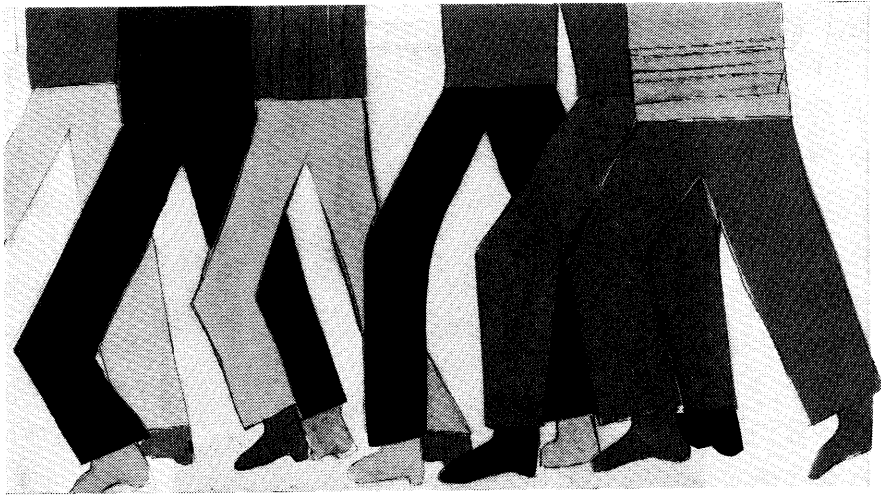




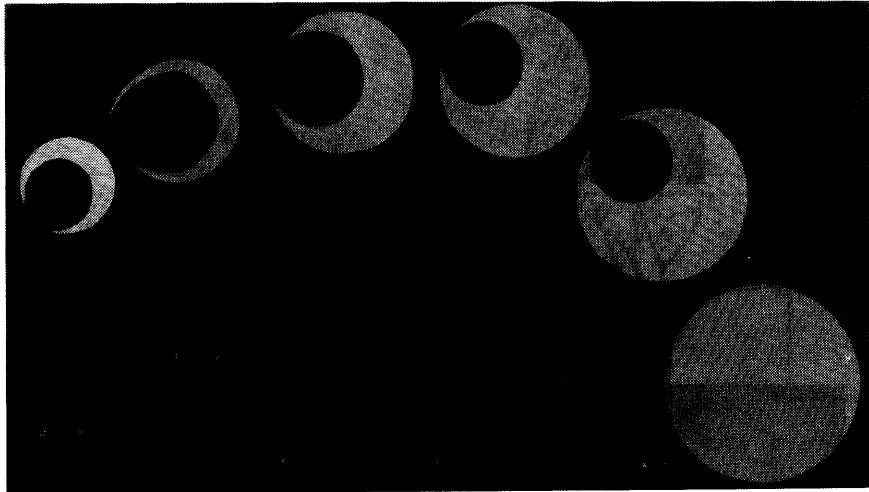
参 考 例 4



参 考 例 5-①



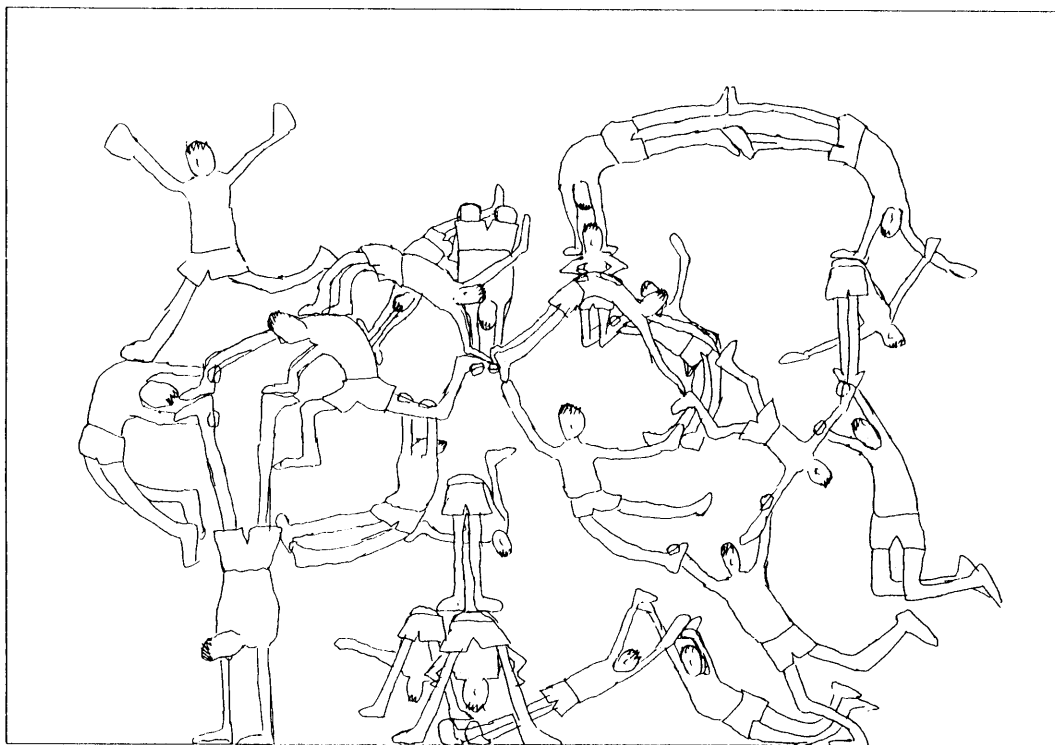
参 考 例 5 - ②



参 考 例 5 - ③



参 考 例 5 - ④



参 考 例 6

〔備考〕 参考作品制作者名

参 考 例	1・2	望 月 由 紀
	" 3	谷 藤 幹 枝
	" 4	今 井 徹
参 考 例	5-①	池 沢 進
	" ②	渡 辺 かおる
	" ③	阿 部 智 恵
	" ④	吉 川 智 子
参 考 例	⑥	新 保 玲 子